

2年生沖縄修学旅行の活動記録③！

【令和8年1月30日】

【修学旅行を終えて生徒感想より】(一部引用)

今回の修学旅行での沖縄民泊体験は、今までの旅行とは違う大変貴重な経験でした。ホテルではなく沖縄の家庭に泊まることで、観光だけでは分からない「本当の沖縄」を知ることができました。民泊先の方は最初から優しく迎えてくださり、緊張していた私たちにも笑顔で話しかけてくれました。家では生活のことや昔の話、方言など教科書では学べないことをたくさん教えてもらいました。また、一緒に沖縄料理を作ったことも印象的で、食材や食文化を知ることができ、家族の一員のような温かい時間を過ごせました。食事中的会話も楽しく、笑顔が絶えませんでした。夜には、自然や昔の暮らし、戦争の話なども聞き、平和について考えるきっかけにもなりました。民泊で一番感じたのは、人とのつながりの大切さです。沖縄の人のあたたかさや思いやりにふれ、自分もそんな人になりたいと思いました。この民泊体験は、沖縄の文化や生活、人の優しさを学びました。これからも忘れられない思い出になると思います。

【引率者よりコメント】

離村式で民泊先の方から、「東濃高校の生徒は明るく礼儀正しく島



の生活を体験し、特に外国にルーツを持つ生徒たちが日本と海外の架け橋になることを期待している。」と話されました。島での生活体験に真剣に向き合っていたと高い評価をいただき、多様な背景を持つ生徒が地域の人々と良い関係を築いたことに期待の言葉も寄せられ、今回の修学旅行を通して、多文化共生の重要性と生徒の成長を支える教育の意義をあらためて実感しました。